

ユーラシア北方のウマ牧畜民 カザフ モンゴル サハ

Horse Riders in Northern Eurasia – Kazakh, Mongol, Sakha

2017. 7. 15 土 ▶ 10. 15 日

<10.2 [月]、10.10 [火] は休館>



カザフの伝統行事「クズコアル」(モンゴル/バヤンウルギー、撮影・提供:西村幹也氏)

馬頭琴(頭部) [モンゴル]
(当館蔵)



騎乗用鞍(くら) [サハ]
(当館蔵)

開館時間 9:00~17:00
<10月は9:30~16:30>

観覧料 ()内は10名以上の団体料金

	特別展	特別展+常設展
一般	450(300)円	800(740)円
65歳以上	300円	300円
高大生	200(160)円	320円
小中学生	無料	無料

主催 北海道立北方民族博物館
協力 国立民族学博物館、北海道大学総合博物館、NPO法人北方アジア文化交流センターしゃがぁ
廣田千恵子氏、池田カナ子氏

◆指定管理者：一般財団法人北方文化振興協会
〒093-0042 北海道網走市字潮見309-1 (道立オホーツク公園内) Tel.0152-45-3888/Fax.0152-45-3889 <http://hoppohm.org>
◆施設設置者：北海道教育委員会 (連絡先：北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課 代表電話 011-231-4111)

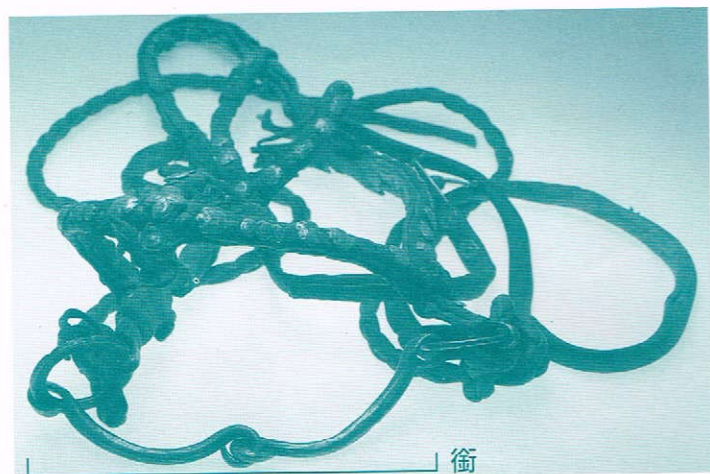
ユーラシア北方のウマ牧畜民 カザフ モンゴル サハ

Horse Riders in Northern Eurasia – Kazakh, Mongol, Sakha

ユーラシア大陸のステップ地帯では、ウマに乗ってヒツジやウシなどを牧畜する生活が広く営まれてきました。ここでは、ウマを自在に制御し、騎乗する技術だけでなく、ウマの乳や肉を利用する文化が発展しました。こうした牧畜文化の伝統は、現在もユーラシア北方地域に暮らすさまざまな民族に受け継がれています。

本展示では、カザフ、モンゴル、サハといった民族を対象に、ウマと牧畜民との関係を紹介します。

※カザフはカザフスタンを中心に、中国・新疆ウイグル自治区、ロシア連邦、モンゴル国西部などに、モンゴルはモンゴル国、中国・内モンゴル自治区とその周辺地域などに、サハはロシア連邦サハ共和国を中心に暮らす民族です。



轡

◀ 轡(はみ) [カザフ] (当館蔵) ウマの前歯(門歯)と奥歯(臼歯)の間の隙間に装着する器具で、手綱とつないでウマを乗り手の思いどおりにコントロールするために使われるもっとも基本的な馬具。5000年以上前から基本的なしくみは変わっていないと考えられ、現代のウマ牧畜民にも使われている。



ウマ用足かせ [カザフ] (当館蔵)



マンモス牙製彫刻 [サハ] (当館蔵)



ウマの汗取り用ヘラ [モンゴル] (当館蔵)



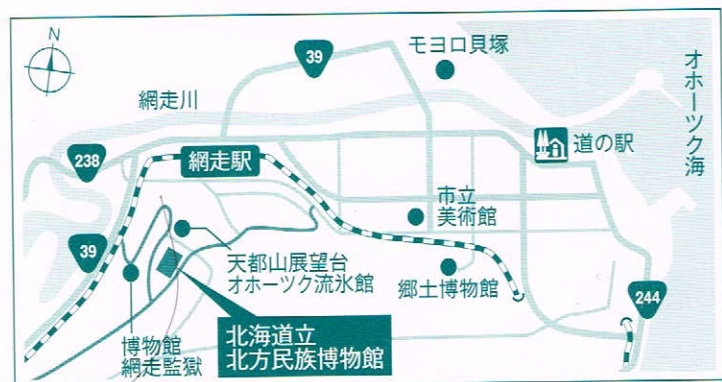
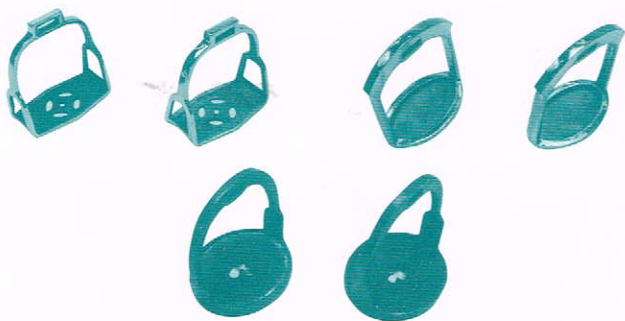
儀礼用具 [サハ] (当館蔵)

馬乳酒用杯 [サハ] (当館蔵) ▶

ウマ牧畜民の間では、ウマの乳を発酵させて作る馬乳酒が広く飲まれてきた。この杯にはサハの伝統的な文様が刻まれ、基部はウマの蹄(ひづめ)を模している。

▲ 鐙(あぶみ) [モンゴル] (国立民族学博物館蔵)

騎乗する人が足を置くための道具で、鞍(くら)に取り付けて使用する。鐙を使うことによって、より簡単に安定して騎乗することができるようになった。



【関連事業】

- 講演会「カザフ草原の暮らしとウマ」9月17日(日) 10:00-11:30、講師: 藤本透子氏(国立民族学博物館)
- 講座「モンゴル国のカザフ-遊牧文化と暮らしのなかの刺繍」9月30日(土) 13:30-15:00、講師: 廣田千恵子氏(千葉大学大学院博士後期課程)
- 講習会「カザフかぎ針刺繍入門」10月1日(日) 9:30-12:00、講師: 廣田千恵子氏(千葉大学大学院博士後期課程)
- 展示解説会: 7月23日(日)、8月20日(日)、各1回目 10:00-10:30、2回目 11:00-11:30、解説: 中田篤(当館)
- はくぶつかんクラブ(小中学生対象) 10:00-12:00
8月5日(土) フェルトで作るゲル型小物入れ
9月2日(土) 手作りバターと簡単チーズ